

# 研究レポート No.794 岩手県農業研究センター

## 生育速度の速い草種を併用した放牧地の春期草地更新技術

### 【1 成果概要】

- (1) 5月の圃場融雪後にイタリアンライグラス (IR) を利用した草地更新を行うことで、その年の7月下旬 (播種後2か月) にはオーチャードグラス (OG) の草丈が30cmに達し、放牧利用が可能になります (図1)。
- (2) IR (極早生種) 0.5kg/10a と OG 2.5kg/10a を春の時期に混播することで、更新した年は3回の放牧利用で牧草収量 2t/10a 程度を確保することができ、翌年には5月末から6回の放牧利用をすることができ、収量にすると 4t/10a 以上が期待できます (図1、表1、2)。
- (3) 更新草地の生草全体に占める OG の割合は、更新した年の初回放牧時の 14% から3回目放牧時には 69% に増加し、翌年の初回放牧時には 80% を超え、優占種となります (表2)。

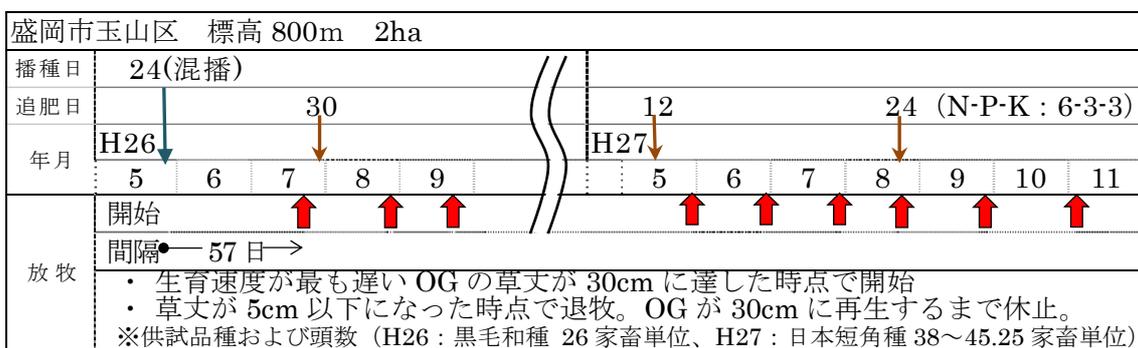


図1 耕種概要および放牧利用状況

表1 各試験区の供試草種、品種および播種量 (kg/10a)

草種	IR		OG	
	品種	播種量	品種	播種量
IR 極早生	ハナミワセ	0.5	バッカス	2.5
IR 晩生	エース	0.5	バッカス	2.5

表2 各試験区の生草収量 (kg/10a)

試験区	草種	H26				H27						
		7/22	8/27	9/16	計	5/29	6/26	7/27	8/19	9/24	11/5	計
IR 極早生	OG	169	264	208	641	1,448	1,210	456	1,077	603	217	5,011
	IR	1,039	276	51	1,366	90	21	114	126	102	102	555
	雑草他	0	60	42	102	134	406	24	38	163	21	786
	OG 率	14%	44%	69%		87%	74%	77%	87%	69%	64%	
IR 晩生	OG	177	362	121	660	850	966	663	871	460	175	3,985
	IR	646	515	263	1,424	466	670	180	128	292	118	1,854
	雑草他	62	77	20	159	27	56	15	41	14	6	159
	OG 率	20%	38%	30%		63%	57%	77%	84%	60%	59%	

※ 同符号間に有意差あり(p<0.05)

### 【2 留意事項】

- (1) 更新した年の秋期に掃除刈りなどを行わない場合は、伸長した IR が倒伏して、翌春に雪腐病が発生し、OG の初期生育を妨げる等の悪影響を及ぼす場合があります。
- (2) 更新の作業工程は一般更新と同様です。作業は雪解け後、圃場で機械作業が可能になった時点で始めることができます。
- (3) 雑草の影響が心配される場合には、非選択性除草剤を用いるなどして、更新後に雑草が優占することのないようにして下さい。

担当研究室 畜産研究所 外山畜産研究室

〒028-2711 盛岡市玉山区藪川字大の平 40

TEL. 019-681-5011 FAX. 019-681-5012